

# 《地域演劇》ってなんだろう??

《地域演劇》をもっと深く  
もっと広く楽しんでいただくために  
2つのゼミを開催します!

ゼミ

1

9/3(土)  
14:30

銀河ホール  
ホワイエ

戦後新劇人が魅せられた「東北の地の演劇」をひもとく。

## 『「地域演劇」を語り継ぐー西和賀、劇団ぶどう座の演劇史』

西和賀では古くから演劇や芸能が行われ、地域の中で親しまれてきました。この脈々と続く地域演劇の歴史は、西和賀にとって、また日本の演劇史にとっても貴重な財産です。特にぶどう座の民話劇は、西和賀だけでなく地域の外にも開かれ、多くの演劇人に刺激を与えてきました。この講座では、舞台写真や台本といった今もぶどう座の稽古場に眠る史料をひもときながら、西和賀における演劇の歴史をたどります。もし観劇した方がいらっしゃれば、ぜひ当時のお話もお聞きしたいと思います。いっしょに地域演劇の未来について考えてみませんか。



**須川 渡** 1984年生。博士(文学)。滋賀県立大学地域文化学科卒業。大阪大学大学院文学研究科(演劇学)修了。劇団ぶどう座をはじめとした地域劇団の歴史を博士論文「戦後日本におけるコミュニティ・シアターの形成と展開」としてまとめる。現在、大阪大学招へい研究員。

ゼミ

2

9/4(日)  
14:15

銀河ホール  
客席

俳優は役をではなく観客を演じるのです。

## 『風景として立つこと』

私の住む埼玉平野の人口3万人の町には劇場がありません。野外上演が多くなります。僕らに上演の場を与えてくれる風景に感謝しつつ、ふだん見過ごされがちその風景の中に劇を置くことで、景観がかつてあった生気を取り戻すように作劇し・演技する。観客から見た景観/景観から見られた観客、その媒介としての演者ということを意識して2000年から上演活動を続けています。舞台上には「観客が見たもの」しかありません。演者は「観客が見ようとしているもの」を演じる存在なのだと思います。背に風景を背負いながら。



**高野 竜** 1966年茨城県生まれ。4歳より児童劇団。現、劇作家・演出家。1999年より埼玉県宮代町で地域演劇祭を主宰、上演実績150本余。第5回劇作家協会新人戯曲賞、第1回宇野重吉演劇賞グランプリ他。

### ◆ 上演スケジュール・会場

9/3 (土)	11:00-13:20 開会式 劇団大阪 豊麗線『幸せ倶楽部』 銀河ホール	14:30-15:30 ゼミ1 (須川 渡) ホワイエ	16:00-17:00 ぶどう座 『猫の事務所ごっこ』 銀河ホール	17:30-18:30 嗜血劇場 『10年後の8月も 何も言えなくて、夏』 Uホール
	9/4 (日)	13:00-14:00 嗜血劇場 『10年後の8月も 何も言えなくて、夏』 Uホール	14:15-15:15 ゼミ2 (高野 竜) 銀河ホール	15:30-17:30 劇団やっぺしfrom北上市民劇場 『笹リンドウを掲げよ』 銀河ホール

### ◆ チケット 銀河ホール(0197-82-3240) または下記プレイガイドにてお求めいただけます!

1日券

大人 700円  
小中高生 300円

両日共通券

大人 1,000円  
小中高生 500円

#### 入場券取り扱い(町内プレイガイド)

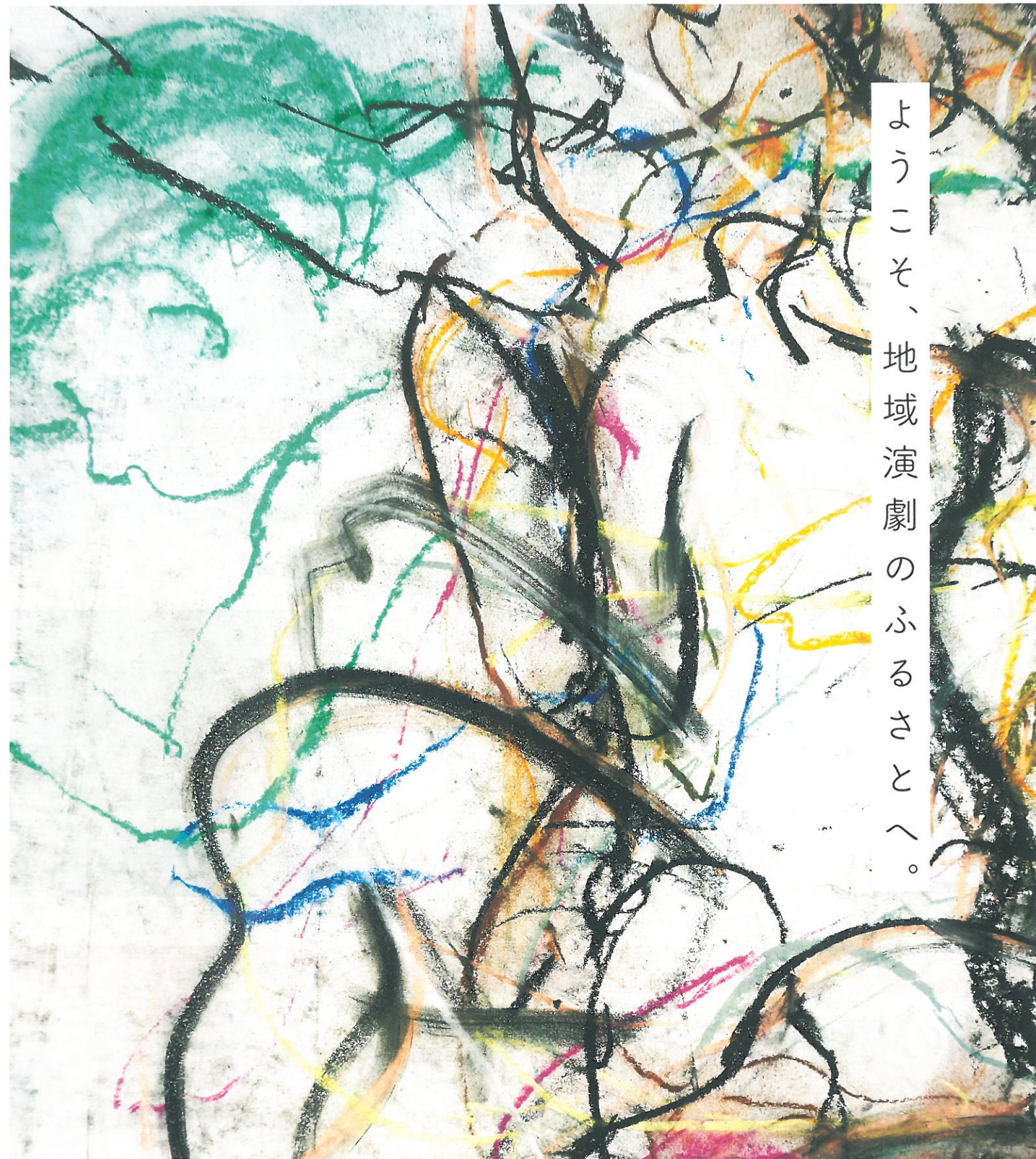
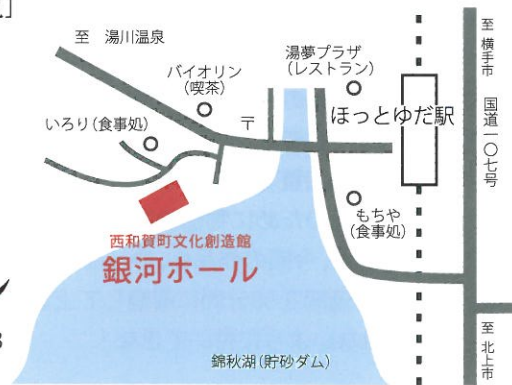
湯夢プラザ観光案内所【ほっとゆだ駅前】 / サロン・ド・愛【川尻】 / 珈琲やまもと【川尻】  
ヤマザキショップ湯田中央店【川尻】 / 憩いの家 福寿荘【巢郷】 / 丑の湯【湯本】  
みなみかわ商店【湯田】 / 六戸商店【太田】 / 猿橋商店【猿橋】 / 北村商店【貝沢】

主催: 銀河ホール地域演劇祭実行委員会  
後援: 西和賀町観光協会 / 西和賀町芸術文化協会 / 西和賀町教育委員会  
助成: 平成28年度文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業



## 西和賀町文化創造館 銀河ホール・Uホール

岩手県西和賀郡西和賀町上野々 39地割 195番地 2 電話: 0197-82-3240 Fax: 0197-82-2883  
JR 北上線「ほっとゆだ」駅から徒歩4分 / 秋田自動車道「湯田」I.C. から車で8分



ようこそ、地域演劇のふるさとへ。

## 第24回 銀河ホール 地域演劇祭

西和賀町文化創造館  
銀河ホール・Uホール  
2016年9月3日~4日

劇団大阪シニア演劇大学 豊麗線(大阪) / 劇団ぶどう座(西和賀町)  
劇団やっぺしfrom北上市民劇場(北上市) / 嗜血劇場(東京)

主催: 銀河ホール地域演劇祭実行委員会  
後援: 西和賀町観光協会 / 西和賀町芸術文化協会 / 西和賀町教育委員会  
助成: 平成28年度文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業





# ようこそ、 地域演劇のふるさとへ。

北上・東京・大阪から3劇団が参加！地元ぶどう座はもちろん、  
「シニア演劇」「市民参加劇」「小劇場演劇」の3つのタイプの“地域演劇”を上演します！  
9月初めの週末は、ぜひ《演劇のまち・西和賀》へお越しください！

劇団大阪シニア演劇大学 豊麗線 [大阪]

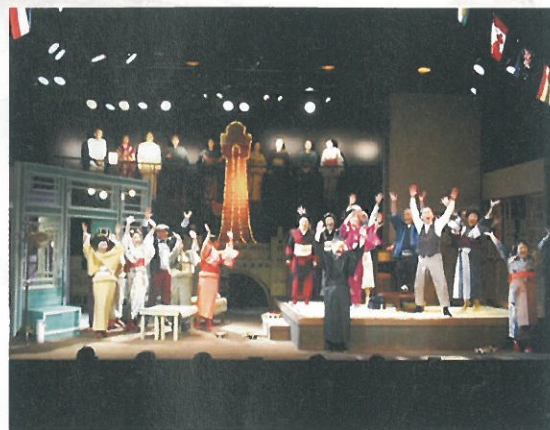
9/3(土) 11:00  
[銀河ホール]

『幸せ倶楽部』 作／土井 陽子 演出／熊本 一

大阪「新世界」に歴史を伝える人たちがいた……。豊麗線が贈る人情喜劇！

ときは大正のはじめ、ところは大坂「新世界」の合邦通り、通天閣の見える街。片山圭介が営む雑貨店「ハイカラ屋」は、さっぱりお客が来てくれません。初代通天閣がそびえ、時代を先取りした遊園地「ルナパーク」の賑わいから取り残されたかのように……。いつしか近所のお年寄りのたまり場になり、お向かいに古着屋「べべや」が開店して、新たな展開へ……。大阪の賑わいを象徴する「新世界」、そこで生業に精出す庶民の悲喜こもごもを描く傑作コメディ。

「豊麗線」は、誕生したばかりのシニア劇団です。2010年、劇団大阪が創立40周年記念行動の一つとして呼びかけた「劇団大阪シニア演劇大学」に応募したメンバーが、5年間の研修を経て、昨年結成しました。ご覧いただけます『幸せ倶楽部』は、昨年「大阪・春の演劇まつり」で[企画・制作賞]を受賞、今回、バージョンアップしてお届けします。歴史を伝える庶民の哀歓を「年齢詐称」とともにお楽しみください。



劇団やっぺし from北上市民劇場 [北上市]

9/4(日) 15:00  
[銀河ホール]

『笹リンドウを掲げよ』 作／松田 真学 演出／中野 健

「天下人」秀吉を向こうに回した和賀一族！ その決断の物語！！

劇団やっぺしfrom北上市民劇場とは、岩手県北上市の「さくらホール(一般財団法人北上市文化創造)」と「北上市民劇場を盛り上げる会やっぺし」が協働で運営する「北上市民劇場」から有志を募り、銀河ホール地域演劇祭参加のために結成された期間限定の劇団です。

「笹リンドウを掲げよ」は平成28年2月、第39回北上市民劇場において上演したものです。「北上市民劇場」では毎年「北上の歴史や文化」から題材を得て舞台づくりに取り組んでいます。今回の舞台は、大河ドラマ「真田丸」と時代が重なっています。当時の北上にも大河ドラマと同じように、大きな流れの中で決断を迫られたり、流れに掉さしたりしていた人々の姿がありました。

再演するに当たり、湯本鬼剣舞保存会の皆様のお力をお借りすることとなりました。新たなメンバーと共に、銀河ホール地域演劇祭ver.をお送りします。



劇団ぶどう座 [西和賀町]

9/3(土) 15:00  
[銀河ホール]

『猫の事務所ごっこ』 原作／宮沢 賢治  
脚色／川村 光夫 演出／森 陽平

まずは小学生になったつもりで演じてみたい。大の大人が猫になるのも、いかがかと思ひまして。

猫といえは現代社会においてはすっかり愛玩動物として不動の地位を占めている小型動物でありまして、巷では「猫カフェ」だの「猫動画」だのといったものも大流行しているようですが、そんな情勢においても「猫の事務所」なんて言葉は耳に入っていないあたり、さすが岩手の誇る宮沢賢治先生は一味違うわけでございます。さらにまた一味ちがうところは、登場する猫たちの愚かしいこと。宮沢賢治先生の描く猫たちは、人間さながらに欲深く、権威に弱く、自尊心は強く、それでいて怠惰で、またそれでいて悪知恵だけはしっかり働く、どうしようもない動物なのであります。

今回お目にかけますのは、そんな宮沢賢治先生の「猫の事務所」を我らが川村光夫先生の手にかけて芝居に仕立てた『猫の事務所ごっこ』でございます。もちろん、ひと筋縄では参りません。おなじみの老女優とベテラン中年俳優に、ヨソモノの地域おこし協力隊や絶滅危惧種の子供高生まで引っぱり込んで、起死回生の「ごっこ遊び」に興じます！



嗜血劇場 [東京]

9/3(土) 17:30 , 9/4(日) 13:30  
[Uホール]

『10年後の8月も何も言えなくて、夏』 作・演出／近衛 虚作

10年で変わったり変わらなかったり。言ったり言えなかったり。

どうもこんにちは。嗜血劇場を主宰している近衛です。ひょんなことから西和賀町を訪れることになった2012年の夏以来、2013年には約2カ月、町で居候しながら取材をして脚本を書いたり、いつの間にか馴染み深い土地になりました。銀河ホール学生合宿事業内で、僕は3本の芝居を上演しましたが、嗜血劇場としてこの町に足を踏み入れるのは始めてです。僕の本気度はいつも以上だし、京都の生きのいい役者を引き連れて乗り込みますから、皆さんに本番を見ていただくのが楽しみで仕方ありません。さて、これまで僕が西和賀でやってきた作品は、この町で見聞きしたことを中心に組み立ててきました。そのために物語の舞台は田舎(という表現が失礼だったらすみません)だったので、今回の作品も、やっぱり田舎が舞台。男女5人が織り成す、あつという間の10年と1週間を60分間に凝縮して上演します。楽しい時間は一瞬で過ぎるもの。振り落とされないように付いてきな！



(前回公演より | 舞台装置：竹内良亮 撮影：脇田友)